

ドラグサクシオン浚渫兼油回収船建造工事

受賞機関 国土交通省九州地方整備局 下関港湾空港技術調査事務所

はじめに

本建造工事は、国土交通省九州地方整備局が管理する開発保全航路である関門航路の増深・拡幅等の浚渫作業に従事するため昭和39年に建造されたドラグサクシオン浚渫船「海鵬丸」の代替船として建造されたものである。

一方、わが国では外洋に出動できる大型油回収船は中部地方整備局の「清龍丸」1隻であったため、平成9年に発生した、ナホトカ号やダイヤモンドグレース号等の事故を契機に国土交通省では大量流出油防除体制の強化を図るべく、本船に大量流出油に対応可能な油回収装置を装備したものである。

本船の概要

(1) 主要目

全長：102m 幅：17.4m 深さ：7.2m
 総トン数：4,663t 計画満載喫水：5.7m
 泥倉容量：2,000^m 回収油水槽：1,500^m
 速力：13.3kt 航行区域：近海区域（国際）

(2) 大量流出油への対応

本船は、北九州市に位置する九州地方整備局関門航路工事事務所に所属し、通常時は、船舶の輻輳する関門航路の浚渫作業を24時間体制で実施しており、

油流出事故時は気象・海象条件の厳しい冬期の日本海でも現場に急行し、油回収作業を行う。

本船が配備されたことにより、「清龍丸」1隻体制時に比べ、特に日本海側での油流出事故が発生した場合、現地到着時間が大幅に短縮でき、より速やかな対応ができる。

(3) 関門航路の浚渫

本船は、関門航路の南東水道、中央水道等の浚渫（-14m化）を行い、浚渫土砂を新北九州空港予定地の埋立に利用しており、非常に効率的かつ経済的である。

本船の特徴

(1) 船の規模や泥倉、回収油水槽容量の点では日本最大級である。

(2) 最新のコンピュータ技術を駆使した、作業船分野では最高の技術水準の自動遠隔制御総合システムを装備した超ハイテク船である。

(3) さらにさらした油（低粘度）からナホトカ号油流出事故で回収が困難だった粘りのある油（高粘度）まで回収できるように国内では初めて2種類の油回収装置を装備している。

受賞賛助会員 石川島播磨重工業㈱



「海鵬丸」各部の名称